

各 位

会 社 名 株式会社 石井工作研究所
代 表 者 名 代表取締役社長 石井仁海
(コード番号 6314)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取締役総務経理部長 時枝典生
T E L (097)544-1001

たな卸資産評価損の計上、特別損失の計上、

平成 27 年 3 月 期 業 績 予 想 値 と 決 算 値 と の 差 異 及 び 役 員 報 酬 の 減 額 に 関 す る お 知 ら せ

当社は、平成 27 年 3 月 期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）におきまして、下記のとおりたな卸資産評価損及び特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。

また、平成 26 年 11 月 11 日に公表した平成 27 年 3 月 期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）業績予想値と本日公表の決算値との差異についてもお知らせいたします。よって、平成 27 年 3 月 期 決 算 を 踏 ま え、 経 営 責 任 を 明 確 に す る た め に 役 員 報 酬 の 減 額 を 決 定 い た し ま し た の で 併 せ て お 知 ら せ い た し ま す。

記

1. たな卸資産評価損（売上原価）の計上

当社が保有するたな卸資産のうち、主に作りだめ半製品について「棚卸資産の評価に関する会計基準企業会計基準第 9 号」に従い、正味売却価額まで簿価を切り下げ、差額である 9 千 4 百万円を平成 27 年 3 月 期 決 算 に お い て 売 上 原 価 に 計 上 い た し ま し た。

2. 特別損失（減損損失）の計上

当社の資産である大分羽田工場は、平成 27 年 3 月 期 に お い て、 事 業 の 用 に 供 し て い な い 遊 休 資 産 と な り、 時 価 が 著 し く 下 落 し た た め、「 固 定 資 産 の 減 損 に 係 る 会 計 基 準」 に 基 づ き、 帳 簿 価 額 を 回 収 可 能 価 額 ま で 減 額 し、 当 該 減 少 額 を 減 損 損 失（75,239 千円）として特別損失に計上しました。その内訳は、建物等 9,227 千円及び土地 66,012 千円であります。

3. 平成 27 年 3 月期業績予想値と決算値との差異(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,200	百万円 △240	百万円 △219	百万円 △240	円 銭 △30.88
決 算 値 (B)	3,234	△466	△437	△528	△67.99
増 減 額(B-A)	34	△226	△218	△288	
増 減 率 (%)	1.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 3 月)	3,089	△42	△13	100	12.89

差異が生じた理由

当社は半導体関連製造装置や車載用製造装置の受注に注力した結果、当事業年度の売上高は 3,234 百万円（前事業年度比 4.7%増）となり、前回（平成 26 年 11 月 11 日）発表いたしました予想 3,200 百万円を 34 百万円（増加率 1.1%）上回りました。

損益につきましては、厳しい受注条件や価格引下げ圧力等があるなかで、製造原価低減や経費節減等に努めましたが、納期遅れの新規案件が多く、原価が増加した結果、業績は極めて厳しい収益状況となりました。また、長期滞留在庫のたな卸資産評価損（売上原価）94 百万円を計上したこともあり、営業損失は前回発表いたしました予想 240 百万円に比べ 226 百万円増加して 466 百万円となりました。経常損失は前回発表いたしました予想 219 百万円に比べ 218 百万円増加して 437 百万円となりました。当期純利益につきましては、保有不動産の時価評価の下落による減損損失（特別損失）75 百万円を計上したこともあり、前回発表いたしました当期純損失 240 百万円の予想に比べ 288 百万円減少して 528 百万円となりました。

4. 役員報酬の減額について

当社は平成 27 年 3 月期決算の結果を踏まえ、経営責任を明確にするために、本日開催の取締役会において下記のとおり役員報酬の減額を決議いたしました。

(1) 役員報酬の減額内容

代表取締役社長	月額報酬の 52%
取締役	月額報酬の 10%

(2) 減額対象期間

平成 27 年 5 月から平成 27 年 7 月まで

※ 上記記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

以 上